

記号的解読による「下町意匠」の構成要素に関する研究
- 立石仲見世商店街を対象として -

宇野研究室

4110014 大塚 雄介

4110064 橋田 萌

1. 研究背景と目的、定義

1-1. 研究背景と目的

戦後、下町に生まれた商店街は、再開発等によりその数は年々減少している。東京都葛飾区にある立石仲見世商店街は、今もなお当時の姿を残している商店街の一つであるが、現在、再開発により姿を変えようとしている。

本研究では、立石仲見世商店街に着目し、「下町意匠」の構成要素を記号的解読により明らかにすることで、新たなまちづくりの要素の発見や今日につながるビジネスモデルの基礎を築き上げることを目的とする。

1-2. 「下町意匠」の定義

戦後間も無くの昭和に建てられた建築物とその空間には、特異な意匠的特徴が見受けられ、時が経つに連れて深みも増している。そんな昭和の意匠の中でも、特に下町に多く見られる意匠的特徴を、本論においては「下町意匠」と定義する。

2. 研究对象·研究方法

2-1. 研究对象 (図 1)

戦後闇市を経て誕生した、東京都葛飾区の京成立石駅南口にある立石仲見世商店街の22店舗^{註1)}を本研究の対象とする。

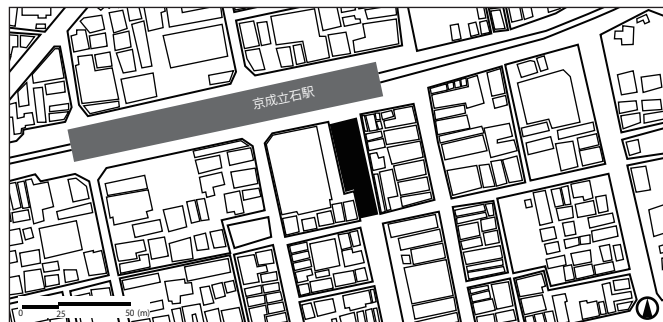
2-2. 研究方法

- 1) 戦後闇市の歴史的背景についての文献調査^{註2)}
- 2) 立石仲見世商店街における店舗情報の予備調査
- 3) 立石仲見世商店街における店舗実測、平面パース作成
- 4) 2),3) を基に分析表を作成し、分析及び考察

3. 戦後闇市による下町形成

3-1. 闇市の発祥

瓦礫と廃墟の中で、最初に露天を再開したのは、新宿に本拠を置く関東尾津組の尾津喜之助親分^{註3)}であった。終戦で納入先を失い、半製品を抱えて途方に暮れていた軍需産業の下請け業者を集めた。現在の設備や半製品を生かし、例えば軍刀の生産者には包丁やナイフ、ナタを、鉄カブトの業者に



▲図 1 研究対象

は鍋を作ることを勧めた。こうして確保した商品を元に昭和20年8月20日に新宿マーケット即ち「闇市」が発祥した。

3-2. 闇市の変遷

終戦直後、自分が所持している品物を地べたに並べて売る人々が大量に発生し、駅前などの不法占拠が行われた。最初は露店で始まり、次々と闇市のバラックが大量に建設されていった。居座るという無法状態がしばらく続いたが、後にその多くは組合を発足し、商店街や繁華街へと変わっていった。

3-3. 下町意匠の形成

戦後の復興を図る為、東京の至る所で闇市が開かれた。それは都市計画上の動きではなく、自然発生的なものであり、その時を生き抜くために必要不可欠なものでもあった。戦後の時代背景と密接な関係を持つ出来事である。闇市を発祥原理に持つ「下町意匠」は、意匠的視点から見ても、その時代、その場所の環境や状況を大いに反映したものとなっており、時が経つに連れて、深みも増している。

4. 立石仲見世商店街の現地調査

4-1. 予備調査

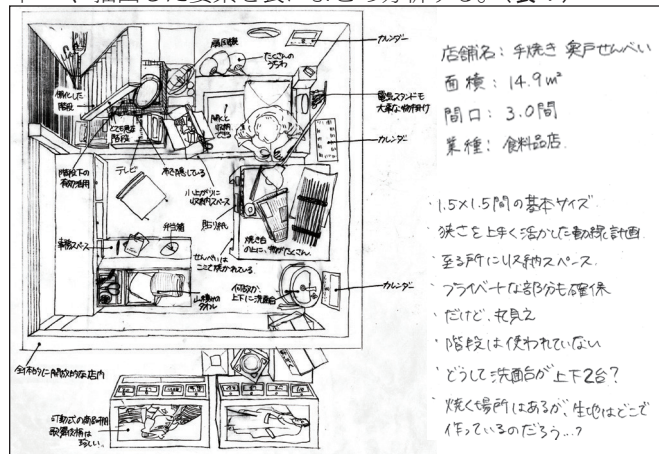
立石仲見世商店街の協同組合が保存する組合員台帳^{註4)}から、各店舗ごとの名称、間口、用途、開業年を調査する。

4-2. 店舗実測、平面パースの作成（図2）

各店舗の実測、写真撮影、聞き取り調査を行い、得られたデータを基に平面パースを作成。作成した平面パースから下町意匠の要素を抽出する。(要素の組成が曖昧なものについては、再度の聞き取り調査、文献調査により判断、特定する。)

4-3. 分析表の作成

続いて、店舗名称、平面パース、面積、間口、業種、開業年^{註5)}、抽出した要素を表にまとめ分析する。(表1)



▲図2 平面パース例（手焼き 奥戸せんべい）

5. 「下町意匠」の構成要素

作成した分析表を基に、下町意匠を構成する要素について考察する。構成要素は、大きく6種類に分類できる。(表2)

a. 時間経過型…長期的な経験または時間経過に伴い構築された意匠。「煉瓦を挟み高さを調節されたシンク」、「利用しなくなった故に日用品や用具の物置場となっている階段」など。

b. 機能・利便追求型…機能性または利便性を追求した結果構築された意匠。「庇を兼ねた大きな下向きの看板」、「休憩用の小上がり」、「台車に乗った車輪のない商品ケース」など。

c. 既存物活用型…既存物を減用途または形態変化させることに伴い構築された意匠。「棚として使われる出窓」、「イスとして使われるビール籠」、「汚れ防止に貼られた新聞紙」など。

d. 空間有効利用型…狭い空間を効率的に密度高く利用することに伴い構築された意匠。「店前に展開配置できる可動式の商品ケース」、「天井まで山積みされたダンボール」など。

e. 地域交流型…周辺コミュニティとの交流に伴い構築された意匠。「来客用のイス」、「母が経営する隣店側に動線」など。

f. 私職一体型…私生活の介入、個性の露出に伴い構築された意匠。「飾られた好きなアイドルのグッズ」、「裏手にある自宅と合体させ広くなった店内」、「完備されたWi-Fi」など。

また、要素の中には複数に分類されるもの(ex. 店前に展開できる可動式の商品ケース=b,d、物置化した階段=a,c,d、作業兼趣味のスペース=b,d,f など。)が多数あり、それらが下町意匠において、特に重要な働きをしていると考えられる。

▼表1 立石仲見世商店街店舗別分析表

店舗名称	1. (有) 鳥善商店	2. 手結き 奥戸せんべい	3. てんまや	4. 鈴屋食品	5. 大板屋婦人洋品店	6. おしゃれの店 わかつ	7. 鈴木食品店	8. こがね衣料品店	9. 木村屋人形焼	10. 甘味茶 松酒屋	11. マルコージューズ チェーン
写真											
パース											
面積	14.9 m ²	7.5 m ²	7.5 m ²	37.3 m ²	9.9 m ²	12.4 m ²	8.7 m ²	12.4 m ²	12.4 m ²	52.7 m ²	19.9 m ²
間口	3.0間	1.5間	1.5間	7.5間	2.0間	2.5間	1.75間	2.5間	2.5間	3.5間	4.0間
業種	食料品店	菓子店	食料品店	食料品店	衣料品店	ファッション雑貨店	食料品店	衣料品店	菓子店	飲食店	履物店
開業年	1977年	2000年	2002年	1954年	1954年	2003年	1954年	1954年	1973年	1954年	1975年
分析	最も原よりの角地に立地するお惣菜屋さん。2方向の通りに対して、全面的に商品を展開配置。店内空間を有効的に利用している。	最も駅が離れた角地に立地するせんべい屋。休憩増業作業場である小上がりが、狭い店内にゆとりを持たせている。	商店のようなお好み焼き屋。金で手作りで造られた内装。店内の置かれてあるモノは、他店と比べて極めて少ない。小さな食品のスペースも完備されている。	駅よりの角地に立地するお惣菜屋。面積、間口共に広く、商品も豊富。店内に子供がいるなど、生活感が垣間見られる。	大板屋の洋装屋。客動線はほぼ全て商品で埋め尽くされている。商店街への密度であり、店主が利用する階段も常に商品で封鎖されている程である。	手作りのアクセサリー屋。店が狭い。トイレが設置されているなど、この商店街には特殊な形態。店主の趣味が前面に出ている空間。	こじんまりとした食品店。商品が私物から分らないモノが多数置いている。伸縮可能な商品台で、商品数の変動にも対応できているようにしている。	おばあさんが一人で経営する商店街の衣料品店。家族写真や好きなアイドルのグッズが飾ってあるなど、よく見る個性が現れているお店。	職人風格の店主が、妻と共に住んでいる形跡。複数の棚を使ったり、用具を山積みして置いていることで、空間を縦方向に密度高く使用している。	広々とした喫茶店。店舗に隣接する住宅の一部を店舗スペースに追加することで、広い店内を実現。Wi-Fiが完備されている。	婦人靴中心の靴屋さん。壁一面を商品棚にし、可動棚で店内にも縦向配置することで、豊富な品数を陳列可能としている。
店舗名称	12. いってん堂	13. 洋品のダイマル	14. 田上洋品店	15. 玉起屋	16. 手作り惣菜 恵比須	17. 丸忠かまぼこ店	18. 二毛作	19. めん匠 にしわき	20. 味はら	21. まくらや	22. 台新青果
写真											
パース											
面積	12.4 m ²	12.4 m ²	14.9 m ²	17.4 m ²	14.9 m ²	12.4 m ²	12.4 m ²	12.4 m ²	7.5 m ²	14.9 m ²	26.7 m ²
間口	2.5間	2.5間	3.0間	3.5間	3.0間	2.5間	2.5間	2.5間	1.5間	3.0間	5.25間
用途	古美術品店	衣料品店	衣料品店	食料品店	食料品店	食料品店	飲食店	食料品店	食料品店	鮮魚店	八百屋
開業年	2001年	1954年	1954年	1954年	1983年	1985年	1997年	1954年	1966年	2007年	1989年
分析	美術品店。装飾の店とは異なる看板が設置されている。店内には美術品が置かれているが、店先では子供服のおもちゃが売られている。	耳配り掛けの衣料品店。商品の洋服を天井から吊るすために、チェーンとフックを利用している。また壁面フック用の引掛け棚が張り巡らされている。	婦人服がメインの洋品店。商品を天井から吊るすことで、多くの商品を陳列。店内では別れた壁がそのまま使われている。	角地に立地するお惣菜屋。傾斜に合わせた特注の商品ケースや庇を兼ねた下向きの大きな看板など、様々な工夫が凝らされている。	角地に立地するお惣菜屋。収納が少なく、階段や床に用具が山積み置かれていた。商品ケースが店前に展開されているので階層は比較的広い。	かまぼこメインの食品店。息子が経営している隣店と商品を共有しているため行き来が必要。動線も息子店側にある。	カウンターとテラス席からなる飲食店。しかし、店先ではお花も売られている。動線は狭く、カウンターやイスも小さい。	和製所と兼通している軽便販売店。店内では販売のみので、空間にゆとりがあり、店前には商品ケースが重ねて配置されている。	1.5間×1.5間の最小単位店舗の狭いお店。入口は階段に有り、店前には商品ケースが重ねて配置されている。	魚介類専門店のお店。階段がシンク脇の台から伸び始めている特殊な構成。店内には、営業に関係ないモノが、ちらほら見られる。	商店街への八百屋。商品がシンク脇の台から伸び始めている特殊な構成。店内には、営業に関係ないモノが、ちらほら見られる。

6. 結論と展望

本研究によって、以下のことが明らかになった。

立石仲見世商店街における「下町意匠」は、a. 時間経過型、b. 機能・利便追求型、c. 既存物活用型、d. 空間有効利用型、e. 地域交流型、f. 私職一体型の6種類に要素の分類が可能であり、これらの要素を組み合わせることで成立している。その中で、b. 機能・利便追求型とd. 空間有効利用型に分類される要素は過半数を占め、合わせて約66%と「下町意匠」を構成する主体である。逆にa. 時間経過型とe. 地域交流型に分類される要素は合わせても約12%程度で、これらはアクセントとして働いていると考えられる。

今後、本研究を基に、現代の下町やそこで暮らす人々の生活、活動に対して、新たにどのような構成要素の組み合わせが可能。有効なのかを、明らかにしていく。

脚注：1) 商店街全44店舗のうち、店舗内実測の許可を頂けなかった店舗、休業中の店舗、協同組合法に反した改修・改築が施された店舗を除く22店舗。 2) 参考文献「東京都市興亡史」/東京焼け跡ヤミ市を記録する会 猪野健治/出版 草風社/ 1978.8.15 3) 尾津善之助 1898-1977 (享年79) 新宿に本拠を置いた的屋系暴力団関東尾津組の組長。後に東京露天商同業組合の理事長に就任。 4) 参考資料「組合員台帳(出資金)」/協同組合 立石仲見世共盛会/～2013.10.1 5) 組合員名簿に記載されている組合加入年月日を開業年とする。

▼表2 下町意匠要素分類表

店舗名称	a	b	c	d	e	f	店舗名称	a	b	c	d	e	f
(有) 鳥善商店	3	12	4	12	2	1	いってん堂	2	8	7	10	1	3
手結き 奥戸せんべい	3	11	5	11	3	5	洋品のダイマル	2	7	4	9	1	3
てんまや	1	10	6	10	1	3	田上洋品店	1	10	4	9	2	0
鈴屋食品	2	12	4	17	1	1	玉起屋	2	13	4	13	1	2
大板屋婦人洋品店	3	11	3	12	3	2	手作り惣菜 恵比須	2	9	5	21	1	1
おしゃれの店 わかつ	2	10	4	5	2	4	丸忠かまぼこ店	1	9	2	11	2	3
鈴木食品店	3	8	4	10	2	4	二毛作	0	7	4	12	2	4
こがね衣料品店	5	9	5	11	4	7	めん匠 にしわき	2	8	2	7	1	2
木村屋人形焼	2	12	7	12	1	2	味はら	0	9	0	12	0	0
甘味喫茶	6	9	4	10	0	5	まくらや	3	10	6	16	1	3
マルコージュース チェーン	2	9	5	13	2	2	台新青果	1	11	3	11	2	2